

平成 19 年 4 月 12 日

定期検査中の 3 号機原子炉建屋内における水漏れについて

東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

当所 3 号機は定期検査中ですが、平成 19 年 4 月 11 日、残留熱除去系*¹ (B) の水張り作業*²を行っていたところ、午後 2 時 44 分頃、当社社員が原子炉建屋 1 階にあるパイプスペース室*³の床 (堰内) および同建屋の地下 1 階の床に水が漏れていることを確認し、その後、同建屋の地下 2 階の床にも水が漏れていることを確認いたしました。

水の漏れは、当該系統のドレン弁*⁴を閉じたことにより、午後 3 時 25 分頃止まりました。原子炉建屋 1 階のパイプスペース室床の堰内 (約 540 リットル) を越えて漏れ出した水の量は、同建屋地下 1 階の床面に約 20 リットル、同建屋地下 2 階のポンプ室内に約 0.1 リットルであり、その放射エネルギーは約 2.8×10^5 ベクレルでした。漏れた水は、拭き取り等により回収し、清掃を実施いたしました。

水が漏れ出した原因は、当該系統の水張り作業時に運転員が当該ドレン弁を完全に「閉」にしなかったため、ドレン弁が接続されている排水受け容器 (以下、ドレンファンネル) に水が流入し、ドレンファンネルに流れ切れなかった水がパイプスペース室の床 (堰内) に漏れ、さらに堰内の配管貫通部から地下 1・2 階の床に漏れたものと推定しております。

対策として、系統の水張り作業にあたっては、水張り弁を徐々に開するとともに、不完全な閉状態の弁の早期発見のため、ドレン弁が接続されているドレンファンネルをチェックするよう手順書に反映します。

また、事例検討会を実施し運転員に周知します。

なお、これによる外部への放射能の影響はありません。

以 上

* 1 : 残留熱除去系

原子炉停止時冷却系として、原子炉を停止した後の燃料の崩壊熱の除去 (燃料の冷却) や、非常時に原子炉水位を維持する系統で、低圧注水系と格納容器スプレイ系にも使用している (A系, B系, C系の 3 系統)。

* 2 : 水張り作業

ポンプ配管などを点検後、系統内を満水にすること。

* 3 : パイプスペース室

配管や弁を通してある部屋。部屋全体が堰構造となっている。

* 4 : ドレン弁

配管内の水を排出するための弁。